

馬産地ライター村本浩平の 2025 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑

Vol. 4 | 9.30[火] ▶ 11.13[木] 開催分



10.1
[水]

ソットサス賞
【サンライズカップ〔H1〕】

新種牡馬

ソットサスは2016年産まれの9歳。父Siyouni、母Starlet's Sister、母の父Galileoとなります。現役時は12戦6勝の成績を残しています。3歳時のGI仏ダービーにおいて、レースレコードとコースレコードを共に更新してGI初制覇を果たします。4歳時にはGIガネー賞を制すると、前年3着だった凱旋門賞では、同レース3勝目を狙うEnableといった強豪を下してGI3勝目をあげます。引退後の2021年よりアイルランドで種牡馬入りし、2025年から日本での繋養を開始。全弟には重賞2勝馬のシンエンペラーの名前もあります。

10.2
[木]

サンダースノー賞
【ネクストスター門別〔H1〕】

サンダースノーは2014年産まれの11歳。父Helmet、母Eastern Joy、母の父Dubai Destinationとなります。現役時は24戦8勝の成績を残しています。2歳時にGIクリテリウムアンテルナショナル、3歳時にGIジャンプラ賞、そして4歳時と5歳時にはGIDバイワールドCを連覇とGI4勝をあげただけでなく、芝、ダートを問わない活躍を見せていました。2020年から日本で種牡馬入り。産駒はダートを中心に活躍を続けており、テンカジョウがJpnIIエンプレス杯など重賞3勝。ナルカミもJpnII不来方賞を制しています。

10.9
[木]

ウエストオーバー賞
【グランシャリオクイーンズ〔H3〕】

ウエストオーバーは2019年産まれの6歳。父Frankel、母Mirabilis、母の父Lear Fanとなります。現役時は13戦4勝の成績を残しています。3歳時にGI初挑戦となったGI英ダービーで3着となると、続くGI愛ダービーでは2着馬に7馬身差をつけての勝利。4歳時の5戦は全てGIに出走しながら連対を外さない安定した走りを見せると、GIサンクルー大賞を優勝。GI凱旋門賞でもAce Impactに続く2着に入着しています。2024年から日本で種牡馬入り。初年度産駒は当歳となっており、セールでも高い評価を受けています。

11.3
[月・祝]

パイロ賞
【JBC2歳優駿(JpnIII)】

パイロは2005年産まれの20歳。父Pulpit、母Wild Vision、母の父Wild Againとなります。現役時は17戦5勝の成績を残しています。4歳時にGIフォアゴースを優勝後、2010年から日本で種牡馬入り。Pulpitの後継種牡馬としても注目を集める中、初年度産駒はダートを中心とした活躍を見せていき、2013年にはNARのファーストシーズンサイアーにも輝きます。2021年にはミューチャリーがJpnIJBCクラシックを優勝。メイショウハリオは2022年、2023年のJpnI帝王賞連覇など、GI級競走で4勝をあげる活躍を見せています。

11.5
[水]

ビッグアーサー賞
【道営スプリント〔H1〕】

ビッグアーサーは2011年産まれの14歳。父サクラバクシンオー、母シヤボナ、母の父Kingmamboとなります。現役時は15戦8勝の成績を残しています。デビューからの5連勝でオープン入りを果たすと、5歳時にはGI高松宮記念を制してGI初制覇。その年にはGIIセントウルSも優勝しています。2018年から種牡馬入り。産駒もまた芝の短距離で活躍を見せており、トウシンマカオが2022年と2023年のGIII京阪杯を連覇など重賞を5勝。今年に入ってから、カンチェンジュンガがGIII阪急杯とGIIセントウルSを制しています。

11.6
[木]

タイトルホルダー賞
【道営記念〔H1〕】

タイトルホルダーは2018年産まれの7歳馬。父ドゥラメンテ、母メーヴェ、母の父Motivatorとなります。現役時は19戦7勝の成績を残しています。2歳時から重賞戦線を沸かせていき、3歳時のGII弥生賞で重賞初制覇。秋にはGI菊花賞を制してクラシックウイナーとなります。4歳時にはGII日経賞に続いて、GI天皇賞・春を制すると、GI宝塚記念をレースレコードで優勝。5歳時にもGII日経賞を制して、ラストランとなったGI有馬記念でも3着に入着します。2024年から種牡馬入り。その年には159頭の繁殖牝馬を集めています。

11.13
[木]

ニューイヤーズデイ賞
【ブロッサムカップ〔H2〕】

ニューイヤーズデイは2011年産まれの14歳。父Street Cry、母Justwhistledixie、母の父Dixie Unionとなります。現役時は3戦2勝の成績を残しています。2歳時に未勝利戦を勝って臨んだGIBCジュヴェナイルを優勝。その後、怪我により引退を発表すると、2014年からアメリカで種牡馬入りします。GI4勝をあげたMaximum Securityの活躍で注目を集める中、2020年から日本で繋養を開始。2024年にはミリアッドラブがJpnIIIエーデルワイスを制した後に、JpnI全日本2歳優駿を優勝と、産駒はダートでの活躍が目立っています。

今シーズンは特別競走7レースも
「スタリオンシリーズ競走」として開催!
●門別16回・ステラヴェローチェ賞

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会（ジャパンブリーダーズカップ協会）が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産牧場に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。
※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

